

# 導入しやすい契約形態

0円 初期費用は無料 0円 解約費用なし 1ヶ月ごとに契約更新できる

機能限定のお手軽なプラン	一番人気のおすすめプラン	家族の安否も確認できるプラン	グループ会社も利用できるプラン
<b>ライトプラン</b> 月額 6,800 円(税抜) 上限ユーザー数 50 ユーザー ご利用可能な機能 <input checked="" type="checkbox"/> 手動送信 <input checked="" type="checkbox"/> 自動集計 <input checked="" type="checkbox"/> 掲示板・メッセージ <input checked="" type="checkbox"/> LINE連携 (オプション) <input type="checkbox"/> 災害連動の自動送信 <input type="checkbox"/> ファイル添付 <input type="checkbox"/> SmartHR人事情報連携 <input type="checkbox"/> free人事情報連携 <input type="checkbox"/> cybozu.com人事情報連携 <input type="checkbox"/> Google Workspace人事情報連携 <input type="checkbox"/> 家族の安否確認 <input type="checkbox"/> API人事情報連携 <input type="checkbox"/> 差出人名変更 <input type="checkbox"/> グループ会社との利用	<b>プレミアプラン</b> 月額 8,800 円(税抜) 上限ユーザー数 50 ユーザー ご利用可能な機能 <input checked="" type="checkbox"/> 手動送信 <input checked="" type="checkbox"/> 自動集計 <input checked="" type="checkbox"/> 掲示板・メッセージ <input checked="" type="checkbox"/> LINE連携 (オプション) <input checked="" type="checkbox"/> 災害連動の自動送信 <input checked="" type="checkbox"/> ファイル添付 <input checked="" type="checkbox"/> SmartHR人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> free人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> cybozu.com人事情報連携 <input type="checkbox"/> Google Workspace人事情報連携 <input type="checkbox"/> 家族の安否確認 <input type="checkbox"/> API人事情報連携 <input type="checkbox"/> 差出人名変更 <input type="checkbox"/> グループ会社との利用	<b>ファミリープラン</b> 月額 10,800 円(税抜) 上限ユーザー数 50 ユーザー ご利用可能な機能 <input checked="" type="checkbox"/> 手動送信 <input checked="" type="checkbox"/> 自動集計 <input checked="" type="checkbox"/> 掲示板・メッセージ <input checked="" type="checkbox"/> LINE連携 (オプション) <input checked="" type="checkbox"/> 災害連動の自動送信 <input checked="" type="checkbox"/> ファイル添付 <input checked="" type="checkbox"/> SmartHR人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> free人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> cybozu.com人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> Google Workspace人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> 家族の安否確認 <input type="checkbox"/> API人事情報連携 <input type="checkbox"/> 差出人名変更 <input type="checkbox"/> グループ会社との利用	<b>エンタープライズ</b> 月額 14,800 円(税抜) 上限ユーザー数 50 ユーザー ご利用可能な機能 <input checked="" type="checkbox"/> 手動送信 <input checked="" type="checkbox"/> 自動集計 <input checked="" type="checkbox"/> 掲示板・メッセージ <input checked="" type="checkbox"/> LINE連携 (オプション) <input checked="" type="checkbox"/> 災害連動の自動送信 <input checked="" type="checkbox"/> ファイル添付 <input checked="" type="checkbox"/> SmartHR人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> free人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> cybozu.com人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> Google Workspace人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> 家族の安否確認 <input checked="" type="checkbox"/> API人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> 差出人名変更 <input checked="" type="checkbox"/> グループ会社との利用

※51ユーザー以上のご利用や月額料金よりもお得な年間契約の詳細は、ホームページをご覧ください。

<https://anpi.toyokumo.co.jp/price.html>



## 全国のさまざまな業界の企業が導入

経営者もかんたん、従業員もかんたん、安否確認サービス2がもしもの安否をかんたんにしています。



東日本大震災に限らず、さまざまな事例が多数掲載中

安否確認サービス2 事例



サービスに関するお問い合わせは、安否確認サービス2 Webサイトへ  
<https://anpi.toyokumo.co.jp/>

※他社登録商標・商標をはじめ、当社のサイトその他カタログ、マニュアル等に記されている会社名、システム名、製品名は一般に各社の登録商標または商標です。  
<https://www.toyokumo.co.jp/copyright>  
 ©トヨクモ株式会社 | Toyokumo, Inc.

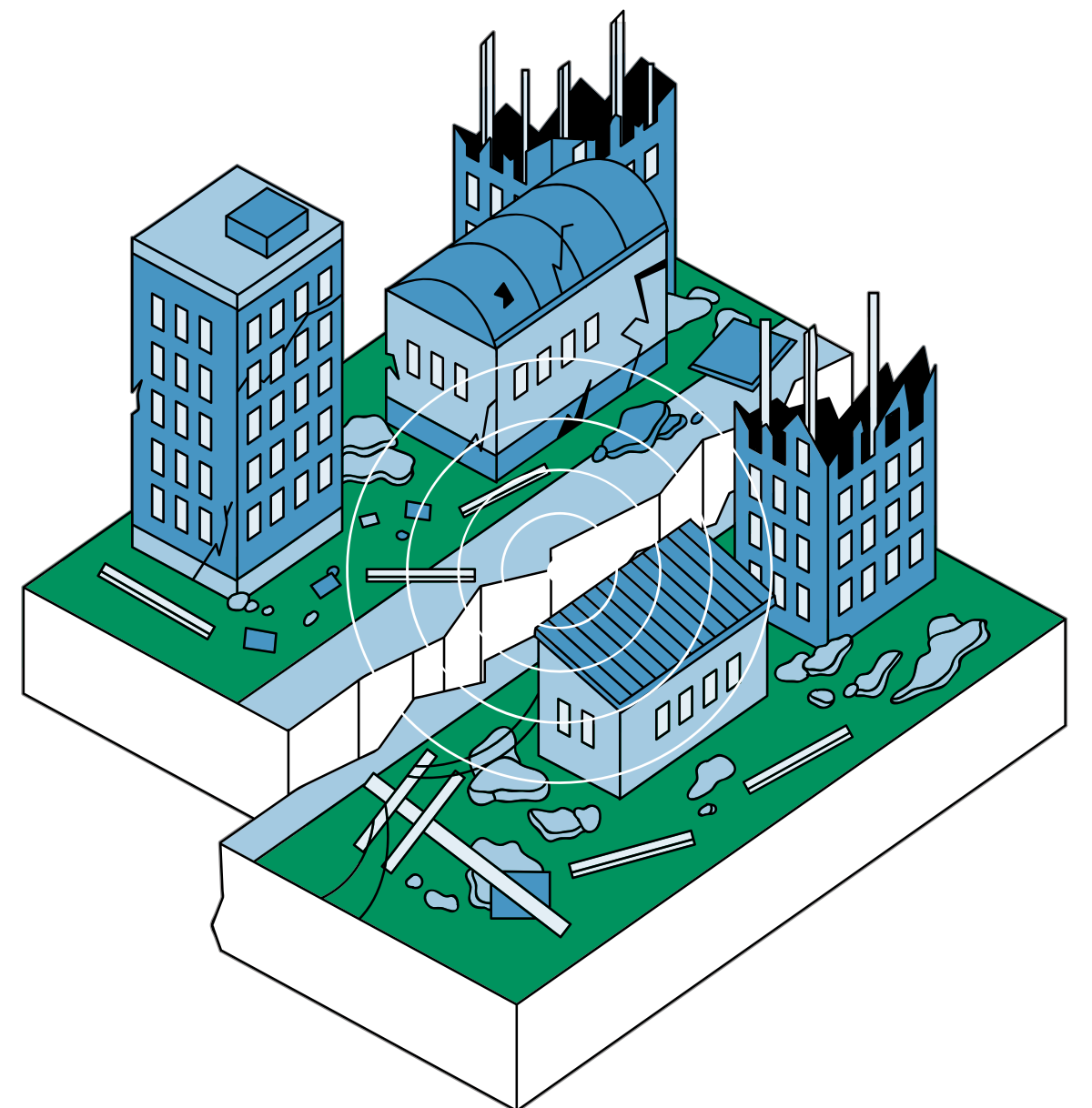
お問い合わせ先

本カタログの記載事項は変更になる場合がございます。

2023年4月版

# 安否確認サービス2 導入事例

## 東日本大震災編



# 目次

## 03 導入実績

## 04 東日本大震災で出た課題を、安否確認サービス2が解決

## 06 東日本大震災級の災害でも稼働する仕組み

## 08 ユーザー事例4選

### 事例1 株式会社アトックス

東日本大震災で得た課題  
安否確認を自動化するために専用システムを導入

### 事例2 バルテス株式会社

総務部が主体となって「安否確認文化」を構築  
一斉訓練で回答時間の最頻値 60秒という結果を出す

### 事例3 泉工医科工業株式会社

安否確認の仕組みを抜本的に見直し  
迅速で確実な情報伝達を実現

### 事例4 エトー株式会社

安否確認を完全自動化  
自社のみならず取引先の負担大幅削減に成功

## 16 安否確認サービス2は、平時のメンテナンスも簡単

## 18 無料お試し・導入相談

## 3,000社以上が導入中

経営者もかんたん、従業員もかんたん、安否確認サービス2がもしもの安否をかんたんにしています。



事業継続において重要なツールであるため、平常時も活用することを心がけています。

アトックス/池田さん



休日や夜間などの営業時間外であっても迅速に情報収集することが可能になりました。

バルテス/久保田さん



安否確認サービス2を導入してからは補助金申請のハードルが下がりました。

泉工医科工業/佐藤さん

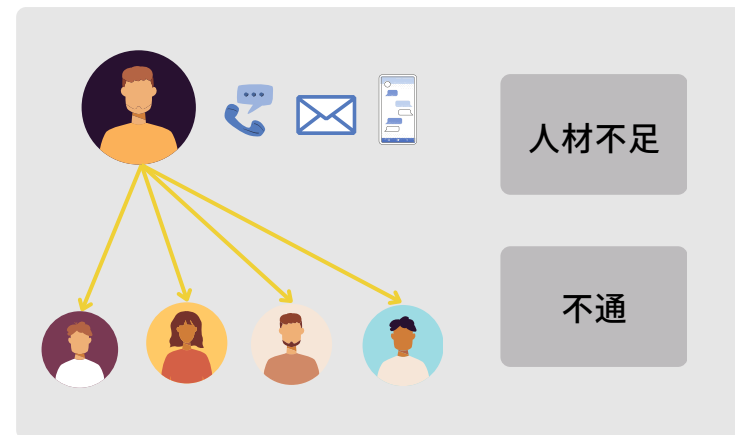


安否確認方法が社内でドラスティックに変化し、本当に恩恵を受けていると実感しております。

エトー/中島さん

# 東日本大震災で出た課題を、安否確認サービス2が解決

## 1 人材不足、連絡の不通で安否情報などの収集ができない

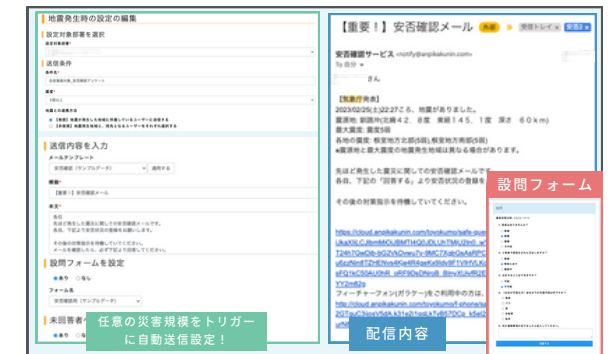


特定の担当者が災害時に電話やメール、SNSで従業員の安否確認や取引先の被災状況を確認すると膨大な時間がかかる。タイミングによっては、通信回線の輻輳で不通になることも少なくない。

## 安否確認サービス2で解決！ システムが担当者に代わって、安否確認を自動化！

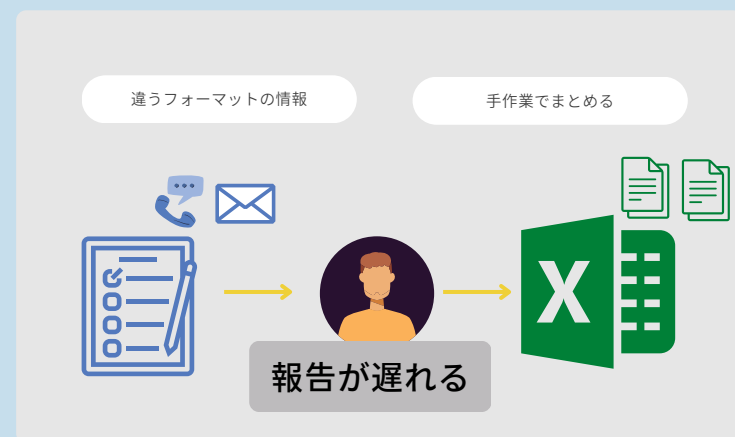


気象庁の地震/津波/特別警報の発令に連動した、メールの自動送信の設定ができます。連絡の手間や漏れ、時間外労働を削減することができます。



送信条件の項目、メールや設問フォームのテンプレートを選ぶだけ。簡単に自動送信の設定を作れます！

## 2 回答の集計に時間がかかって、報告が遅れる



電話やメール、SNSなどさまざまなフォーマットで情報を受け取り、Excelなどにまとめるのは大変。入力ミスや漏れに注意する必要がある。

## 安否確認サービス2で解決！ システムが担当者に代わって、集計を自動化！

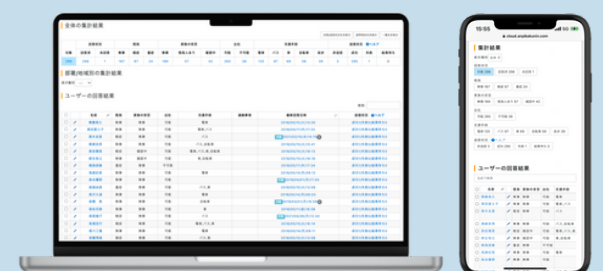
設問フォームに回答があると管理者に通知が届きます！



自動送信されてから10分後に管理者に対して、集計結果の案内メールが送信されます。

ID/パスワードの入力不要！クリックするだけで集計画面にアクセスします。

自動集計の結果をさまざまな端末から確認できます！



出社をしていなくても手元にある端末から集計画面にアクセスすることができます！

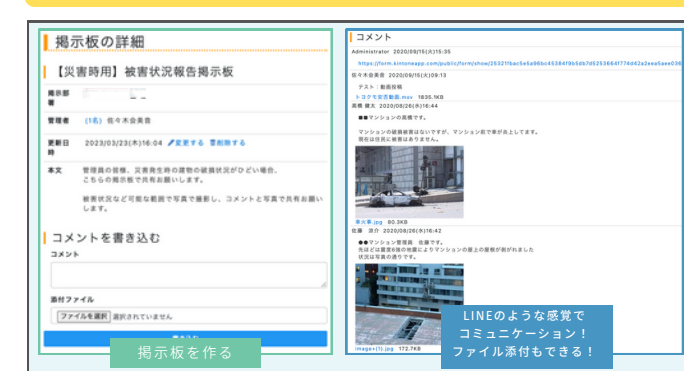
## 3 出社ができず、コミュニケーションが取れない



通信回線の輻輳で、円滑なコミュニケーションが取れず、事業復旧の対策を議論することができない。また、従業員へ情報伝達が遅れ、一時的に事業が停止してしまうこともある。

## 安否確認サービス2で解決！ オンラインでどこでも対策会議ができる！

全ユーザーとオンラインでコミュニケーション



LINEのような感覚でコミュニケーション！ファイル添付もできる！

特定のメンバーで議論

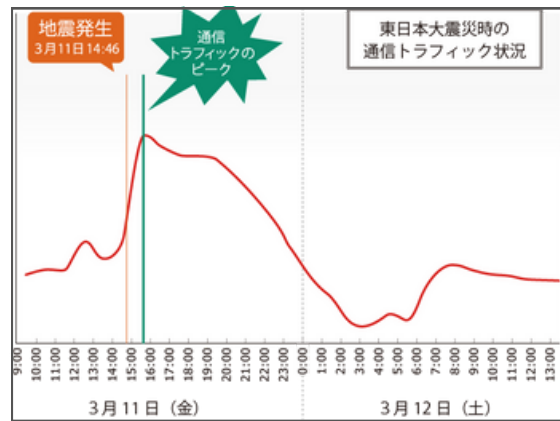


最大200ユーザーを宛先に指定できるコミュニケーション機能です。防災担当者の議論スペース、各部署の連絡用、1対1のやり取りなどに活用できます。

# 東日本大震災級の災害でも稼働する仕組み

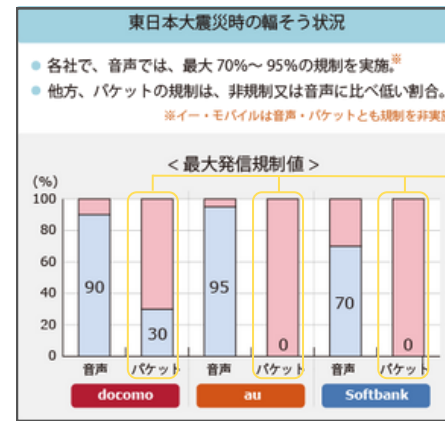
## 通信回線が輻輳する前に自動でアンケート付きのメールを送信

通信トラフィックのピークは発災後30分~1時間後にピークを迎えます。それまでにメールの配信を完了させることを目標としております。



※安否確認サービス2は、毎分100万通以上のメールを配信できる、SendGrid（センドグリッド）というメール配信システムを利用しています。

大規模災害時でもほとんど規制されることのない**パケット通信**のみで回答できる、ウェブ回答方式を採用しています。



大手通信キャリア2社で規制されていない。

## 負荷検証を兼ねた全契約社対象の一斉訓練

毎年9月1日(防災の日)の前後にご契約中の全ユーザーを対象とした、全国規模で一斉訓練を行っています。この一斉訓練では、**実際の災害に近い、またはそれを超える規模でシステムに負荷をかけることで、システムが災害時に本当に稼働できるのかを、お客様ご自身の目で確かめることができます。**更に参加された企業には、回答率の時間推移や訓練全体の平均回答時間をまとめた**訓練レポートが無償で提供されるため、防災意識を高めるきっかけにもお役に立ていただけます。**

### 一斉訓練の実績

#### 2021年度

・31万1,987名へ一斉送信  
13時に約14万ユーザーがシステムへアクセス、障害や遅延なし。

#### 2022年度

・44万1,292名へ一斉送信  
11時に約17万ユーザーがシステムへアクセス、障害や遅延なし。

#### Good安否確認賞2022 最優秀賞受賞企業様の声

四半期に1度、グループ全体で安否確認の一斉訓練を実施しています。回数を重ねるたびに回答スピードや回答率は向上しているのですが、予告なく発生する自然災害に対しても社員が迅速に対応できるのか、また、管理者が結果を随時把握できるのか、という懸念がありました。「安否確認サービス2」の一斉訓練では、**多くの会社様と同様の条件で、さらに開始時刻が予告されないため、当社社員の対応状況の位置付けが分かり、その後の社内防災体制改善に役立つと考えました。**また、自グループ内で実施する訓練と比較し、緊張感を持って臨めるという点も有意義だと感じています。



株式会社ガスパル 取締役 黒澤さん

### 安否確認サービス2の自動配信実績

誤報判定のため災害発生後10分間の時間を置いてから、自動一斉送信を開始しています。これは、気象庁が誤報を発報した際に誤った自動送信を防ぐための機能となります。

発生日時	災害種別	災害発生地域(地震は震央)	最大震度(波高)	配信完了日時	要した時間
2023-02-25 22:27	地震	新潟沖	震度5弱	2023-02-25 22:41	14分
2022-11-09 17:40	地震	茨城南部	震度5強	2022-11-09 17:54	14分
2022-10-21 15:19	地震	福島沖	震度5弱	2022-10-21 15:31	12分
2022-10-02 00:02	地震	大隅半島東方沖	震度5弱	2022-10-02 00:16	14分
2022-09-18 21:05	特別警報(大雨)	宮崎県北部山回り		2022-09-18 21:18	13分
2022-09-18 18:55	特別警報(大雨)	宮崎県北部平野部、宮崎県北部山回り		2022-09-18 18:48	13分
2022-09-18 16:51	特別警報(大雨)	鹿児島県大隅		2022-09-18 16:42	11分
2022-09-18 16:05	特別警報(大雨)	宮崎県南部平野部		2022-09-18 16:18	13分

誤報判定後4分で配信

安否確認サービス2では自動配信実績を公開しております。平成30年北海道胆振東部地震では地震発生から自動メール配信完了まで、10分(誤報判定時間除く)という結果でした。配信実績を公開していないサービスが多く不透明であるからこそ、導入検討時にご確認いただきたいです。

自動配信実績の確認はこちらから!

2017年6月20日からの配信履歴を確認することができます。

<https://anpi.toyokumo.co.jp/function/data.html>



## 国内の災害を想定したシステム構成サーバーを国際分散

世界最大のクラウドサーバー事業者である、アマゾン ウェブ サービス (AWS) のデータセンターを利用しています。AWSは、**世界最高水準のセキュリティ誇っており、国内の金融機関や米国政府なども利用しています。**

建屋の耐久性や入退室管理、サーバーの監視などは厳格なルールに則って運用されており、**1年を通じて2,600を超える要件について、外部の監査機関による監査を受けています。**

データセンターはシンガポールをメインとして、日本、アメリカと国際分散しています。



※シンガポールは、直近の100年間で地震が観測されておらず、津波被害の記録もありません。距離的にも日本と比較的近く、電力事情も安定していることから、当社ではあえてシンガポールのデータセンターをメインとしています。

取得している認証  
トヨクモ/AWS



## 事例1

# 東日本大震災で得た課題 安否確認を自動化するために 専用システムを導入



	<b>株式会社アトックス</b>	
	<b>事業</b> 原子力発電所保守管理/原子燃料サイクル施設関連業務など <b>従業員数</b> 1,983名(2022年9月末時点)	<b>お話を伺った方</b> 安全・品質保証部長 熊谷さん 人事労務部長 高田さん 人事労務部 副課長 鈴木さん 人事労務部 副課長 池田さん 人事労務部 矢野さん

### 課題

☹️ 東日本大震災で全従業員の安否確認に2週間かかり、安否確認システムを導入。  
しかし、平常時の人事情報のメンテナンスに膨大な作業工数が発生。

### 効果

😊 人事情報のメンテナンスを自動化し労働生産性の向上を実現。

詳細はこちら

<https://anpi.toyokumo.co.jp/case/atox.html>

## 東日本大震災を経験して情報収集の仕組みを見直し

—安否確認システム導入前の課題を教えてください

熊谷さん：安否確認システムを導入する以前は、災害が発生した際は緊急連絡網を確認して、電話やメールで従業員の安否確認をしていました。

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、主要な連絡ツールであった携帯電話は電気通信事業者が通信規制を実施したため、一時的に電話が繋がらなくなり、情報収集の仕組みが一部機能しませんでした。

福島県においては東京電力福島第一原発事故の影響で、市町村長から避難指示が発令されたため、避難所などに調査隊を派遣し人的に従業員の安否確認をしました。

全従業員の情報収集に2週間かかった結果を踏まえ、災害発生時などの緊急事態において情報収集・共有を迅速にする手段はないかと考えていたところ、人事情報を登録し、地域を設定するだけで従業員の安否情報を自動で収集できる安否確認システムの存在を知りました。



## メンテナビリティの高い製品へ乗り換え

—導入はスムーズに進みましたか？

熊谷さん：付き合いがあったA社が安否確認システムを提供していて、限定的ではありましたが一部の災害であれば安否確認を自動化できることが確認できたため、比較を行わず本社の従業員200名を対象にテスト導入しました。

—A社さんのサービスから、なぜ安否確認サービス2に乗り換えたのでしょうか？

鈴木さん：毎年約100名程度の人事異動があり、頻繁に人事情報をメンテナンスしています。人事情報管理はシステム開発会社に委託し開発した自社独自の人事管理システムで行なっていて、A社の安否確認システムは連携することができず、重複してメンテナンスする必要があり膨大な作業工数が

発生していました。人事情報のメンテナンス業務を夜間に対応するなど、労働生産性の低下を感じ、人事管理システムと人事情報を連携できるトクモの安否確認サービス2へ乗り換えました。安否確認サービス2の導入後は、人事情報のメンテナンス業務が一元化されて、人事管理システムの情報が自動的に反映される仕組みになり、業務効率が上がったことで、労働生産性が向上したと思います。

人事情報管理が煩雑になると、各システムで管理している情報に差異が発生するリスクが増えます。例えば、人事管理システムと安否確認システムに登録されている人事情報が異なっていた場合、安否確認システムに登録されている情報に誤りがあれば、いざという時に従業員の情報収集ができない可能性があると思います。こういった状態では、災害時の業務を効率化する専用システムを導入しても、意味がありません。だからこそ、正確な情報で運用するために、安否確認サービス2の人事情報連携機能は絶対に必要です。

## 経営資源である「ヒト」を迅速に把握し確保する

—人事システムとの連携機能を評価いただきありがとうございます！その他良かった点はありますか？

高田さん：アトックスでは、防災の視点から自社で定期訓練を実施していますが、メーカー主催の訓練で安否確認メールの受信、回答、集計状況を踏まえた議論と実際の災害と同様の流れを確認できて、さらに、訓練後に提供される結果レポートから振り返りができることから、継続して参加をしています。

これまでに2回一斉訓練に参加して、その都度結果レポートを踏まえ、一斉訓練後(11月)に再訓練を実施し、一斉訓練で得た課題改善や従業員の安否確認の意識向上に努めています。2021年の一斉訓練では、結果レポートから従業員の回答率を改善できると感じて、現状報告・改善のために資料を作成し、従業員へ周知しました。結果として再訓練では、一斉訓練と比較して回答率が13ポイント増加し、約270名の回答が増えました。

## ご担当者様から一言

東日本大震災の経験と反省を踏まえ、首都圏直下型地震を想定した「大規模災害発生時」における行動指針を策定しました。安否確認サービス2は、事業継続において重要なツールであるため、平常時も活用することを心がけています。

自動配信が可能な地震・津波・特別警報において、緊急度の高低に関わらず、従業員が高い危機意識を持って活用できる仕組みを整えていきます。

人事労務部 副課長 池田さん

—一斉訓練で回答率が向上したことに嬉しく思います。最後に今後の活用について教えてください。

高田さん：アトックスの企業理念は「環境とエネルギーの課題解決に寄与し、社会の発展と社員の幸せに貢献する。」です。安否確認サービス2の導入目的は、災害発生時などの緊急事態に従業員の安否情報を迅速に収集することです。事業継続をして迅速な復旧が可能になるほか、その情報をもとに自社の従業員に命を守るための行動を指示することも可能です。


従業員を大切にして、防災改革を進める、その中心に安否確認サービス2があると思っています。特徴でもある、充実したコミュニケーション機能を活用して、インターネット上で活発に情報発信・共有ができる環境が実現することを期待しています。



## 事例2

総務部が主体となって「安否確認文化」を構築。一斉訓練で回答時間の最頻値 60秒という結果を出す



	<b>バルテス株式会社</b>	
	事業 ソフトウェアテストサービス、セキュリティ・脆弱性診断サービスなど 従業員数 756名(2022年9月末時点)	お話を伺った方 総務部 久保田さん

### 課題

- 連絡網の管理が煩雑になり、情報の正確性が低い
- 休日・夜間の安否確認の体制を構築できない
- 安否確認の業務負担が大きい

### 効果

- 連絡網の更新業務を大幅に削減
- 安否確認を自動化して、休日・夜間の迅速な情報収集を実現

詳細はこちら

<https://anpi.toyokumo.co.jp/case/valtes.html>

## いざという時でも事業を継続するために安否確認サービス2を導入

### 一安否確認サービス2導入の背景を教えてください。

久保田さん：2011年の東日本大震災をきっかけに災害時の安定した事業継続、迅速な復旧を目標に従業員の安否確認を電話やメールで実施する仕組みを整えていましたが、連絡網をペーパーで管理していたため、情報更新の手間や情報の正確性に欠けるという課題がありました。

また、災害が発生した際は緊急対策本部の担当者が社内イントラの掲示板に災害情報を投稿、その内容を元に緊急用のメーリングリストを使用して安否確認メールを配信していたのですが、休日や夜間の対応方法は定まっておらず、いざという時に後手に回ってしまうのではという不安もありました。

### 一情報管理、安否確認の体制に課題があったようですね。

久保田さん：災害時に従業員の安否確認ができなかったり、遅れたりした場合、自社サービスの提供が一時的にできなくなってしまう可能性もありますので、安否確認は重要だと思っています。

事業継続・復旧といったBCPの視点から、どのような状況でも確実に全従業員の安否確認を行いたいと思いシステムを探していました。

### 一安否確認サービス2の導入で、とくに重視されたポイントを教えてください。

久保田さん：最優先の目的は「連絡網の管理の手間を減らす」「休日や夜間も安否確認をすることができる」でした。また事業が拡大して従業員数が増加したことにより、災害時の安否確認などの業務負担が大きくなっていったため、事業継続や復旧の人材リソースを確保するためにも「安否確認・回答結果の集計の手間を減らす」ことが重要だと考えていました。

安否確認サービス2は、人事情報を登録すれば自動で連絡網が作成されて、安否確認から集計も自動でできるため、目的の実現性が高く、使ったことがない人でも「操作画面を見るだけで直感的に」使えるシステムであったことが決め手となり、導入しました。

## 連絡網の更新作業を自動化。安否確認の情報収集力が向上した

### 一安否確認サービス2導入後の変化について教えてください。

久保田さん：システム上にデジタルの連絡網が構築できて、情報の更新も自動的に従業員に指示する仕組みがあり、更新の業務を大幅に削減、情報の正確性も確保できました。この連絡網は、人事情報の登録をすると自動で作成される仕組みで、弊社はSmarterHRというクラウド人事労務ソフトを導入していたこともあり、安否確認サービス2とボタン一つで同期して簡単に作成することができました。

また、地震や津波、特別警報に連動する自動一斉送信機能の活用することで、安否確認を自動化することができました。安否確認サービス2は、管理者と従業員が個々に登録した地域情報に紐づいて、安否確認メールが自動で配信されます。安否確認メールの設定は、トリガーとなる災害レベルや連携方法などの項目ボタンを選択するだけで登録することができるので

とても簡単で助かっています。

さらに、所属する地域を従業員が自由に登録できるため、出張する従業員が出張先となる地域を登録すれば、その地域情報に合わせて安否確認メールが配信されます。これらの安否確認業務が自動化されたことで、休日や夜間などの営業時間外であっても迅速に情報収集することが可能となりました。

その他に 掲示板 や メッセージ という、災害時に従業員と安否確認サービス2でコミュニケーションを取れるチャット機能もあり、事業を継続するために必要な機能が揃っていると感じています。トヨクモさんが提供しているマニュアルを参考にして、自社独自のマニュアルを作成し展開したことで従業員のサービス理解の促進にも繋がりました。さまざまな視点で業務工数を削減できたと実感しています。

## 一斉訓練で回答時間の最頻値 60秒という結果を出す

### 一安否確認サービス2導入で、新しく取り組んだことはありますか。

久保田さん：安否確認サービス2を導入して運用開始の準備が整った2022年7月以降に2回、安否確認訓練を実施しました。7月は大雨、8月は地震を想定して、安否確認や出社可否などの設問を事前に用意しました。訓練では、実際の流れを想定して、未回答者にはリマインドを行ったり、災害対策本部を設置して役員も交えて結果の確認や運用体制の見直しを行ったりした結果、7月より8月の安否確認訓練の回答率が高くなりました。

訓練後には、回答のリマインドをしても反応がない従業員に対して、所属の管理職から回答の催促を行い、それでも回答がない場合には総務部が直接コミュニケーションを取り、安否確認メールに回答するよう指導をしました。従業員に面倒だと感じさせてしまうかもしれませんが、万の際に全従業員・会社を守るために必要な業務と考え対応しています。

### ご担当者様から一言

さまざまな危険から従業員を守る体制を確立して、バルテスのサービスをご利用いただく皆様に継続してサービスを提供できるように、従業員の安否情報の収集から事業継続・復旧の統制に安否確認サービス2を活用しようと考えています。

また、半期に一度災害を想定した安否確認訓練を実施するなどして、安否確認文化が途絶えないよう活動を続けていきます。


総務部 久保田さん





### 事例3

## 安否確認の仕組みを 抜本的に見直し 迅速で確実な情報伝達を実現





 泉工医科工業株式会社	<b>泉工医科工業株式会社</b>	
	事業 人工心肺装置、人工肺、人工弁等の人工臓器 およびディスプレイ製品の製造販売など 従業員数 706名(2022年11月末時点)	お話を伺った方 常務取締役 佐藤さん 管理部次長 中村さん 生産技術課 浅沼さん

#### 課題

-  東日本大震災が起きた際、従業員の安否確認や情報収集に膨大な時間がかかった
-  緊急時の対応について明確な方針がなく、災害時に会社全体が混乱した状況に陥った

#### 効果

-  安否確認やその集計作業が自動化されて業務負担は0になった
-  メーカー主催の一斉訓練と独自訓練で従業員に防災意識を定着させた

詳細はこちら

<https://anpi.toyokumo.co.jp/case/mera.html>

## 災害時に確実に稼働するシステムの導入を検討した

一安否確認サービス2導入のきっかけや背景について教えてください。

中村さん：導入を検討するきっかけは、2011年3月11日に起きた東日本大震災でした。幸い大きな被害はありませんでしたが、翌日が休日だったこともあり、従業員の状況把握や復旧作業、休み明けの対応などについての体制が整っておらず、会社全体として混乱した状況に陥りました。

特に電話やメールが繋がらず、安否確認や情報収集に膨大な時間がかかっていた印象があります。消防訓練は以前から行っていたのですが、防災という観点で見ると意識が足りなかったように思います。その後展示会などに足を運び、災害時の安否確認、情報収集を確実にできるツールはないか、と探し始めたという流れです。

佐藤さん：また、当社では全社員の半数余りが製造・開発部門に所属しており、その多くがクリーンルーム内で医療機器の製造作業をしています。

内部にはスマートフォンを持ち込むことができない一方、災害が起きた場合、クリーンルームを出てご家族や親族に連絡を取ろうとしてもすぐに電話は繋がりません。

同時に、社用デバイスやメールアドレスを所有していないパートタイマーの従業員への安否確認もできない状況でしたので、個人情報を収集することなく全従業員の安否確認ができるツールを探していたところ、トヨクモさんの安否確認サービス2であれば実現できそうだと感じ導入を検討しました。

## 確実に安否確認ができる安心感と設定の自由度の高さが魅力

一安否確認サービス2を選んでいただいた理由について教えてください。

中村さん：会社全体ではなく春日部事業所のみでの導入であったため、コスト面が重要視されました。当時、比較対象がいくつかあったのですが、最終的に適切な価格帯で私たちの求めている機能をカバーしてくれている、つまり費用対効果に納得できるという理由でトヨクモさんの安否確認サービス2を選びました。

自動で安否確認メールが配信されること、災害時の出勤指示や緊急連絡網としてだけでなく、普段の連絡ツールとしても使用できるなど幅広い活用ができるというのが大きかったです。また、展示会での説明が分かりやすかった、シンプルで使いやすい、といった印象を受けたのも理由の一つです。

一安否確認サービス2導入後、効果は感じられていますか？また運用イメージとのギャップはありますか？

中村さん：導入前のイメージとのギャップは特になく、反対にプラスアルファで活用できる機能に満足しています。

一プラスアルファで活用できる機能ですが、具体的にどのようなシーンで活用されていますか？

浅沼さん：安否確認サービス2は、アンケート調査機能で体調管理ができたり、特定の人と個人的にメッセージのやりとりができたりと多機能なので、コロナ禍の連絡ツールとしても役立っています。

## 一斉訓練をもとに独自訓練を実施 従業員の防災意識の向上に貢献

一斉訓練はどのように役立っていますか？

中村さん：当社では作業者の多くがクリーンルーム内で作業しているため、先日行われたトヨクモさんの一斉訓練にリアルタイムで参加することはできませんでしたが、ただ、社内では前回の一斉訓練をもとに、日時を変更して社内独自の訓練を行っていきこうという流れになっています。

防災面における安否確認や連絡網としての役割を安否確認サービス2に担ってもらうことで、私たちは消防訓練や避難訓練など他に集中できるので助かります。

佐藤さん：また、製造業ということもあり日頃から防災意識は高い方だと思うのですが、こうしたイベントが定期的開催されることで、従業員の防災意識の定着にもなるので非常にありがたいですね。

一最後に、今後の展望について教えてください。

中村さん：防災対策として活用していくのはもちろんなのですが、社員サービスの一環として「家族の安全も守れる」という点をPRしていきたいです。いざという時に家族の安否確認ができる、掲示板が利用できる、といったサービスが社内にあるというのは従業員にとって安心感も大きいと思います。

## ご担当者様から一言

中小企業として国の補助金を申請する機会が多いのですが、その際にも役立っています。近年、申請の条件としてBCPに対する取り組みを問われることが増えており、当社では従業員の安否確認に関してトヨクモの安否確認システムを運用しているということをBCPの一環としてアピールさせていただいています。BCP対策をしていないと申請すらできないことも多いのですが、安否確認サービス2を導入してからは補助金申請のハードルが下がりました。

常務取締役 佐藤さん



## 事例4

# 安否確認を完全自動化 自社のみならず取引先の 負担大幅削減に成功



	<b>エトー株式会社</b>	
	事業 精密メカニカル・パーツから自動化設備まで、 幅広い産業をサポートする技術提案型商社など 従業員数 221名(2022年3月末時点)	お話を伺った方 資材部 中島さん

### 課題

- 東日本大震災の発生当時100%  
人力で安否確認を行い、十分な  
初動対応ができなかった
- 全国各地で災害が起こる度状況  
把握に膨大な時間と手間がかか  
っていた

### 効果

- 担当者1名でも広範囲の安否確認  
や状況把握が可能となった
- 2時間以上かかっていた初動対応  
が15分以下になった
- 時間外労働がなくなった

詳細はこちら

<https://anpi.toyokumo.co.jp/case/eto.html>

## 手間なく確実に被災情報の収集ができるシステムを模索

一般段の業務について教えていただけますか？

中島さん：売上利益の向上を目的とした営業部門へのサポートをメイン業務としております。具体的にはBCP調査、納期・価格交渉、取引先情報・台帳の更新、契約締結、購入代金の支払業務、買掛金のデータ作成、営業システム情報の更新作業、新商品の立案など多岐に渡ります。いずれの資材業務も顧客要望に直接リンクするため、自ずとBCPの位置付けも高くなります。

—BCPの位置付けが高いとのことですが、いつ頃から対策されていたのでしょうか？

中島さん：大きなきっかけとなったのは2011年に起きた東日本大震災です。当時、私自身は名古屋営業所におり被災したわけではありませんが、東北にも取引先や営業所が複数あったので、電話やメールで安否連絡を取り、必要であれば資材部のスタッフが現場に向き事業復旧作業などをお手伝

いしました。また、取引先で災害が起きるケースもあれば、その先の外注先や材料メーカーが影響を受けるケースもあるので、さまざまな可能性を考慮した上でのBCP対策を講じました。そこで少しでも手間や時間をかけず、しかし確実に被災情報の収集をできる方法はないかと考え、専用システム導入を検討するに至りました。

—安否確認サービス2の導入前はどのような課題があったのでしょうか？

中島さん：以前は災害が発生した際、エリア別に取引先を絞り込み、スタッフ総出の電話によるローラー作戦により被災情報の収集を行っていました。東日本大震災のように災害規模が大きいと対象エリアも広域となります。それでも短時間で被災情報の収集を余儀なくされるため、予め対象を絞り込んで電話連絡せざるを得ない状況となり、時間と手間がかかることに加え、得られる被災情報が限定的となるのが悩みの種となっていました。

## 安価なのに機能充実、抜群のサポート体制が魅力

—そのような課題を解消するためにどのような視点で安否確認システムの選定をされたのでしょうか？

中島さん：元々、こういった情報収集を社内でシステム化できないのかとアプリ作成を検討しましたが、時間も費用もかかることが分り外部システムの導入に切り替えました。たまたま通勤時の車内広告で災害時の情報収集を簡単にできるというトヨクモの安否確認サービス2を見かけたこともあり、他社サービスとの比較をしました。他社は基本機能以外課金制であったり、使いづらかったり、サポートが不十分だったり。最終的に試用期間を経て感じた操作性の良さ、コスト感、機能の充実性からトヨクモの安否確認サービス2を選びました。

—決め手に使いやすさを上げていただきましたが具体的に何がよかったのでしょうか？

中島さん：当社ではサイボウズ社のGaroonを導入しており、トヨクモの前身がサイボウズ社ということで親近感がありましたが、信頼性も高かったですね。UIといたしまさ、操作画面にも親しみを感じ、使い勝手がよかったです。その他にも決め手になった要素はいくつかあって、最終的に安否確認サービス2も含めた2社のサービスをトライアルしましたが、基本料金で地震以外の災害もカバーできる、データセンターが国際分限されているなど災害時の稼働やセキュリティ面でも安心な運用ができるのは安否確認サービス2だと思いました。

また、サポートが非常に手厚くて好感が持てたのもポイントです。当社ではかねてより取引先の台帳をエクセル管理しており、既存のデータをCSVに変換するだけで簡単に移行できたのは非常に助かりました。また、一度登録操作を誤った際、サポートセンターに問い合わせたら一発解決でき、こちらの細かい質問にも納得できるまで解説してもらえました。

## 安否確認から集計までの時間を2時間以上短縮させることに成功

—導入後、実感している効果について具体的に教えてください。

中島さん：先ほどもお伝えした通り、東日本大震災が発生した際、当社は100%人力で被災情報の収集を行っていました。電話による確認作業は1社につき5分程度ですが、まずはその対象取引先を絞るのに1時間、そこから5名ほどのスタッフでの電話対応に約1時間、さらに集計に30分はかかり、その後社内展開して最終的に顧客へ調査回答するまでに少なくとも2時間半ほどかかっていた。それが今では、実質1名の担当者で15分以内で行なえるようになり、大幅な時間短縮ができています。

24時間365日いつでも取引先へ安否確認メールが自動配信され、時間や場所を選ばず自分のタイミングで状況確認や集計作業ができるようになったのも大きな利点です。

## ご担当者様から一言

有事の際もお客様への供給を途絶えさせないということを最優先事項と考えるため、安定したサプライチェーンを確立するにはBCP管理が非常に重要になります。長らくの課題を安否確認サービス2でシステム化できたので、今後は対象取引先を拡充していきたいです。この度の導入で、安否確認方法が社内でドラスティックに変化し、本当に恩恵を受けていると実感しております。

資材部 中島さん





# 安否確認サービス2は、平時のメンテナンスも簡単

CSVファイルの読み込みで従業員や部署情報などを一括更新

ユーザー情報のCSVファイルからの読み込み

項目は以下の順で読み込みます

1. 親ログイン名	2. 名前	3. 新ログイン名
4. 読み	5. メールアドレス	6. 電話番号

グループのCSVフォーマットを使用する場合は、以下の順で読み込みます

1. 親ログイン名	2. 名前	3. 新ログイン名	4. パスワード
7. 削除フラグ	8. 読み	9. メールアドレス	10. メモ

追加したい場合: 親ログイン名・削除フラグは空白とし、名前・新ログイン名・パスワードを入力してください。その他の項目は任意に入力してください。\*は入力できません。

更新したい場合: 親ログイン名を入力し、削除フラグは空白とし、更新したい項目に値を入力してください。更新しない項目は\*を入力してください。

削除したい場合: 親ログイン名を入力し、削除フラグを1としてください。

※詳細についてはこちらをご覧ください。

CSVファイルから読み込む[ユーザー情報]-Step 1/2

CSVファイル

ファイルを選択 選択されていません

読み込み対象部署

でもホールディングス株式会社

文字コード

Windows-31Jのファイルとして読み込む(Windows OSなど)

UTF-8のファイルとして読み込む(macOSなど)

グループのCSVフォーマットを利用する

キャンセルする

次に、ファイルの中身を確認する

ボタン1クリックで従業員や部署情報などを簡単メンテナンス

安否確認サービス2は、SmartHR、free人事労務、cybozu.com、Google Workspaceと連携しています。



● 安否確認サービス2と SmartHR連携で簡単メンテナンス

トヨクモ 安否確認サービス2

ボタンを1クリック! SmartHRにログイン

連携を許可

● 安否確認サービス2と free人事労務連携で簡単メンテナンス

トヨクモ 安否確認サービス2

ボタンを1クリック! free人事労務にログイン

連携を許可

グループウェアや人事情報システムの情報を同期

人事情報を管理しているシステムと安否確認サービス2を連携させて、メンテナンスの工数を削減することができます。

API認証トークンの発行

API認証トークン: 未発行

API認証トークンを取得する

API認証トークンを発行して人事システムとの連携設定

トヨクモ 安否確認サービス2

ユーザー情報や部署・地域情報、所属情報を半自動的に安否確認サービス2に登録、編集、削除することができます!

● 安否確認サービス2と cybozu.com連携で簡単メンテナンス

トヨクモ 安否確認サービス2

ボタンを1クリック!

cybozu.com連携

連携を許可

● 安否確認サービス2と Google Workspace連携で簡単メンテナンス

トヨクモ 安否確認サービス2

ボタンを1クリック!

Google Workspace連携

Googleにログインして連携

※APIとは、異なるシステム同士を繋ぐ窓口のようなもの。連携にあたっては、利用中の社内システムがAPIに対応しているかを確認してください。

各種連携サービスを利用するためには、安否確認サービス2ライトプランより上位のプランのご契約が必要です。また、各種連携サービスの利用料金が別途必要です。

# 安否確認サービス2で安否確認について

# 詳しく知りたい方へ！

安否確認サービス2で「安否確認」を

試したい！

安否確認サービス2で「安否確認」を

相談したい！

## 1 安否確認サービス2の無料お試しを申し込もう！

お試し申し込みURL  
<https://anpi.toyokumo.co.jp/trial.html>



※無料お試しは、申し込みいただいたプランで全ての機能を検証いただけます。

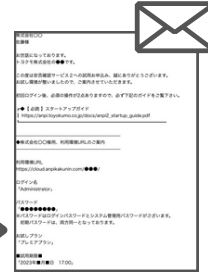
※安否確認サービス2のお試し期間中は、支払いに関する情報は伺いませんので、終了後に自動的に課金されることはありません。

※無料お試し終了後に再度申し込みすることで、何度でもお試しできます。



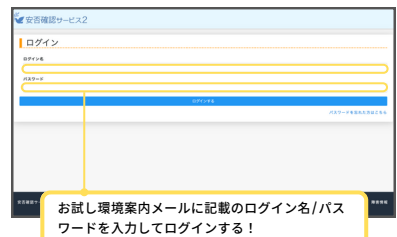
お申し込みフォームに従って入力

お試し申し込み完了後に担当スタッフよりご連絡します。その後、お申し込みの内容に合わせて、メールでお試し環境をご案内します。

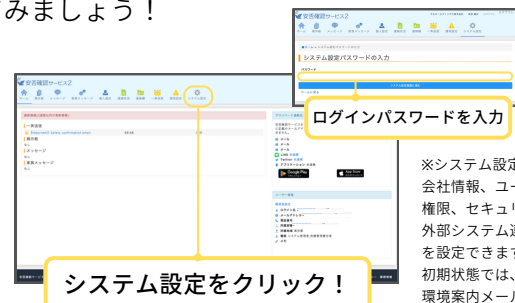


## 2 スタートアップガイドに沿って、機能を体験しよう！

お試しに申し込みした方は、スタートアップガイドに沿って、まずは自分のアカウントを登録！基本機能を使ってみましょう！

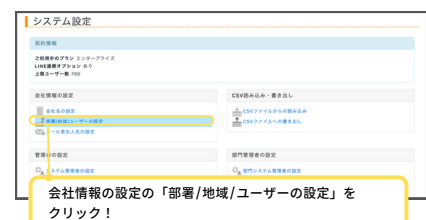


お試し環境案内メールに記載のログイン名/パスワードを入力してログインする！



システム設定をクリック！

※システム設定では、会社情報、ユーザーの権限、セキュリティ、外部システム連携などを設定できます。初期状態では、お試し環境案内メールに記載のパスワード入力してアクセスできます。



会社情報の設定の「部署/地域/ユーザーの設定」をクリック！



Administratorの名前/ログイン名/パスワード/メールアドレスを編集して自分のアカウントを作り、お試しをはじめましょう！

初期設定を30分で完了する

別冊：

初期設定が「30分」で終わる安否確認サービス2スタートアップガイド

## トヨクモに相談する

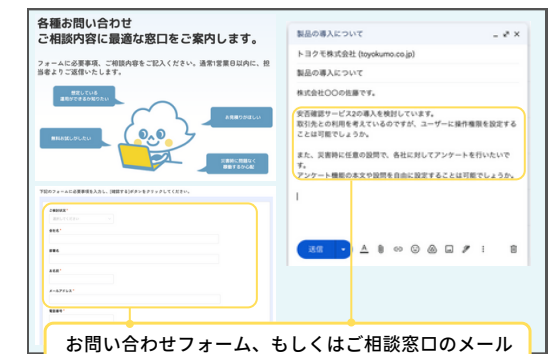
### 電話相談

専門のスタッフが疑問やご相談をお伺いして、お客様に合わせてサポートいたします。



### メール相談

不明点や気になる点など、導入に関する相談をメールで気軽に相談できます。



お問い合わせフォーム、もしくはご相談窓口のメールアドレスにお問い合わせください。

詳しくは

安否確認サービス2 相談



## ご相談窓口はこちら！

安否確認サービス2の運用、導入について  
お気軽にご相談ください



<https://anpi.toyokumo.co.jp/inquiry.html>

050-3816-6666

9:00~18:00

toyokumo@toyokumo.co.jp

土日祝を除く